

日本と中国両政府と国民のみなさんへのアピール

平和的な話し合いを通じて尖閣問題の解決を

尖閣諸島の領有権問題を巡り、両国の対立が激化し、緊張した状態が続いており、一触即発の状態にあると言えます。

この間双方でナショナリズムが高まり、一部で暴力的破壊行為が発生するまでに至りました。両国の人的、経済的関係、交流は大きな打撃を受け、多くの国民が大変憂慮しています。

去年は日中国交回復40周年でした。今年は日中平和友好条約締結35周年にあたります。この40年間の両国関係の進展は人的交流、経済的つながりなど多方面で目を見張るものがありました。しかし昨年秋以降、対立の激化とともに関係は悪化の一途をたどり、この状況が続けば、積み重ねてきた両国国民の成果を大きく損なってしまうことにもなりかねません。両国の対立と衝突は害にこそなれ、何の利益ももたらさないでしょう。

私たちは両国の発展を願う立場から、何としても武力による衝突を避け、早期にこの局面を打開するとともに、日中両国の関係を改善しなければならないと考えております。そのためにも平和友好条約にもあるように「相互の関係において、すべての紛争を平和的手段により解決し及び武力又は武力による威嚇に訴えないことを確認する。」（第一条2項）の条項に従って慎重に行動すること、直ちに話し合いを始めること、を求めるものです。

2013年7月1日

呼びかけ人 〈敬称略・五十音順〉

池辺晋一郎(作曲家)

大城立裕(作家)

進藤栄一(筑波大学名誉教授)

長尾光之(日本中国友好協会会長)

安井三吉(神戸大学名誉教授)

上里賢一(琉球大学名誉教授)

ジェームス三木(脚本家)

辻井喬(詩人・作家)

森村誠一(作家)

山田洋次(映画監督)

-----キリトリ-----

日本と中国両政府と国民のみなさんへのアピール

「平和的な話し合いを通じて 尖閣問題の解決を」に 賛同します

(ひとことメッセージ)

(氏名)

(職業・役職)

(住所)

(TEL・FAX)

(取り扱い組織)

※ 日中友好新聞へのお名前・メッセージの掲載不可 (お名前等の公表に支障がある方はに印をお付け下さい)